

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和5年10月3日（火）

白井市役所東庁舎3階会議室302・303

1. 開会
  2. 市長挨拶
  3. 意見交換  
子どもの居場所づくり  
～子ども一人ひとりに寄り添った居場所づくり～
  4. 閉会
- 

○出席委員等

教育長	井上 功
教育委員	齊藤 豊
教育委員	中里 敏康
教育委員	松田 加奈子
教育委員	久保 利枝

---

○出席職員

市 長	笠井 喜久雄
企画政策課長	村越 貴之
企画政策課	松田 浩明
教育部長	宗政 隆雄
教育総務課長	落合 一矢
生涯学習課長	山本 敏行
文化センター長	高花 宏行
書 記	中村 妃佐
書 記	鈴木 美菜

午後2時45分 開 会

○事務局 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第1回白井市総合教育会議を開催いたします。

本日、議事進行を務めさせていただきます企画政策課の松田と申します。よろしくお願ひいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として市長が設置するものです。

それでは初めに、市長から挨拶をお願いいたします。

○笠井市長 皆さん、こんにちは。市長の笠井です。今年度1回目、皆さんといろいろな課題について話し合う機会を楽しみにしています。今回も、いろいろ調べながら今日の子供の居場所づくりというテーマを決めました。国の動きを若干話をしますと、合計特殊出生率、国の今の最新データで見ますと1.26、子供の出生数が77万人です。80万人を切っている状況にあり非常に日本全体の人口が減っている状況にあります。

しかし、調べてみると、日本の人口のピークが2008年、当時1億2,800万人いまして、これがピークで15年前から人口が減っている状況であります。

こういう状況を踏まえて、国が4月にこども基本法を制定して、そして、その総括的な管理を行う、こども家庭庁が設置されて、横断的に子供中心の政策を進めるところであります。

そして、今、こども未来戦略会議を開催して、3年間、3兆円を超える規模の予算を確保して、子供政策を進めていくというような方針が出ています。

しかし、本当に子供政策に特化しているかどうかは、中身がまだ分からないような状況です。どちらかというと、子供を持つ家庭、世帯に予算が配分されていくのかというふうに考えているところであります。

今回は、国は子供を持っている家庭や子供に対して支援しますけれども、白井市としましては、白井にいる子供たちが本当にこの市内に居場所があるかどうかについて、委員の皆さんと話をしていきたいと思っています。

遅れましたが、今回、新しく久保委員さんがこの委員会のメンバーになっていただきまして、本当にありがとうございます。歓迎いたします。

今回、いろいろと、どういうテーマがいいか考えた結果「子どもの居場所づくり」、そして「子ども一人ひとりに寄り添った居場所づくり」というものを、ここにいるメンバーと忌憚のない議論を交わしていきたいと思っています。

今回、子供の居場所といっても範囲が広いですから、前提条件を私なりに絞ってみました。

まず、居場所というのは、どういう場をいうかということで、安心する場、楽しい場、交流の場ということ、子供の居場所ということで定義をつけさせていただきました。いろいろな定義がありますよね。子供にとっては、いたい場所とか、行ってみたい場所とか、楽しい場所等ありますけれども、今回は、こういうような言葉を使って、ここで議論をしていきたいと思っています。

対象者は、小学生、中学生、高校生を対象にしています。

そして、対象地域は白井市内に限定をいたしました。印西とか鎌ヶ谷に行けば、また違った居場所があるのですが、この市内で今の子供たちが本当に居場所があるかどうかについて、皆さんと忌憚のない議論をしていきたいと思っています。

子供を取り巻く環境ということで、私なりに今の子供たちがいろいろな環境の中で生活しているということを感じています。

一つは、少子高齢化です。高齢化、65歳以上の高齢者の割合が日本は29%を超えています。白井市は、それよりも1ポイント低い28%になっています。ただ、今後、白井市は、国の高齢化よりも速いスピードで高齢化を迎えることが課題です。

一方で、少子化です。先ほど77万人という話をしましたが、白井もこの5年間で子供の数が減っています。つい最近の年間の出生者数、令和4年度のデータを見ますと300人を切りました。それ

までは、300、400、500という数字はいたのです。しかし、この一、二年で300を切っている。近々のデータで見ますと、284人、令和3年度ですね。非常に子供の数が減ってきているというのが実態です。一方で、高齢者が亡くなる数が年間500人いますから、この差が白井市の人口減少を招いている原因です。

白井市の場合、ちょっと話がそれますが、人口のピークが平成30年度。このときの人口が6万3,700人、ここに来て、若干人口減少が止まって、この令和5年は、8月では人口が少し増えてきました。今、6万2,800人ですから、ちょっと人口が戻りつつあるかなと。ただ、これをよく見てみると、人口が増えている原因というのは、外国人。外国人がこの白井市に転入し、その影響で人口が少し持ち直しているのかなというふうに自分なりに分析しています。

この人口の話をもっとしますと世帯数は増えているのです。人口は減っているのに、世帯数が増えている。これは何かというと、一人暮らしの家族の方が多くなっている。実際、皆さんの地域においても、独居の人が増えているのを実感されていると思います。データから見ると、こういう状況にあります。

そして、二つ目が核家族化。人口減少と同じようにも取れるのですが、今、白井市の場合、一大家族、大体2.5です。3人いないのです。こういう状況です。県内の54の市町と比べてみると、2.5というのは、現在では悪い数字ではありません。むしろ、2.5というのは高い数字です。千葉県の平均が2.3ですから、県平均よりは多い。だけれども、2.5というのは、やはりこれは核家族化を迎えているというふうに言えると思います。

三つ目が共稼ぎ夫婦。日本の労働人口がどんどん減っている中で、国の政策は、生産年齢人口がどんどん減っていますから、結婚しても一緒に仕事をするような、そういう環境にある。確かに自分たちの頃も親が仕事をしていて、子供たちだけのことがあったのですが、今ほど共稼ぎ夫婦が増えていることはないというふうに感じています。

四つ目が、地域コミュニティーの希薄化です。なかなか地域とつながりが少なくなっている。具体的に言うと、自治会とかの加入率が減ってきている。いろいろな関係団体に、なかなか新しい人が入っていかない。役員は高齢化を迎えている。地域のつながりをうっとうしく思う人たちが増えているのは実態だと思います。

そして、もう一つがネット社会。子供たちがみんなスマホを持ったり、タブレットを持っていて、いろいろなネットにつながっていて、いい面もあるけれども、逆に誹謗中傷ですとかいろいろな問題が発生している。これも今の子供たちが置かれている状況だと思っています。

あとは、多文化共生社会。各学校を回ってみると、外国の方の子供たちが増えてきています。今の子供たちというのは、外国の人たちと一緒に生活をしたり、差別をしない。こういう社会に、今いるというふうに思っています。

そして、価値観の多様化。情報が蔓延していますので、それぞれの個人個人の価値観というのが非常に高くなってきている。自分たちの子供の頃よりも大変な時代に子供たちは置かれているなど感じています。

そして、格差社会です。これは、生活の格差、教育の格差、いろいろな格差社会が発生しているのではないかと思います。特によく言われているのは、コロナのこの3年間で経済格差や生活格差が顕著に表れてきているというようなことが言われていますので、非常に子供たちの、生活している環境

は厳しくなっているというふうに思っています。

さらに言うと、児童虐待。新聞報道で子供が虐待により死亡したというそういう事件が多くなっているのではないかと感じています。これは統計は調べていないのですが、報道を見ていると、非常に子供に厳しい環境になっているというふうにも実感をしています。

その次が、いじめです。これはデータを見てしまうと、年々いじめというのが増えている実態。これは恐らくいじめの定義が、制度がよくなって、いじめと捉えることができる環境もあると思うのですが、ただデータだけ見てしまうと、いじめをされている子供が増えているのも実態だと思います。

そして、ヤングケアラーです。この問題もここに来てクローズアップされています。千葉県が令和5年3月に、県内の小・中・高を調べた調査結果が出ています。多分、皆さんも知っていると思うのですが、自分もそれを調べたのですけれども、この千葉県のデータを見ると、これは小学6年生と中学2年生と高校2年生を対象にした内容です。

この結果では、世話をしている家族があるというふうに答えた割合、小学校6年生は14.6%です。中学2年生が13.6%、高校2年生が10.5%、ですから、1割以上の方が何か家族で面倒を見ている人がいるという実態が、この千葉県の調査で浮き彫りになっています。

ちなみに、白井市にもそのアンケートをやった結果が出ていますが、教育委員会から聞くと、白井市は0という数のアンケートが出ています。対象がそんなに多くなかったもので、恐らく、結果、答えたのが0だというふうに思っています。ですから、ヤングケアラーという問題も、ここに来てクローズアップされている問題でもあると思います。

それと、不登校。これも全国的にも増えている。白井市の場合、教育委員会にお願いして、どのくらい不登校がいますか、ということ聞いたのですが、これは令和4年度末の結果です。小学校が42人、全体の数の割合でいくと約1.2%。中学生が111人、全体でいくと6%です。6%ですから、少なくない数字ですよ。しかし、自分がいた頃の学校と比べると、不登校はこんなにいるのと、今回調べてみてびっくりしました。

最後に、自殺。これは新聞でも報道されましたが、子供の自殺が500人を超えたと。最新のデータでは、514人という数に増えてきているという、いろいろな背景があると思うのですが、これも少ない子供の中で、この問題は見逃すことができないものだと思います。

ちなみに、大人の自殺。今日、新聞で出ていましたね。2万1,881人ということで、この大人の自殺も増えてきている。特に男性がここに来て増えた。女性は、10年以上も年々増えているらしいのですが、男性もここに来て増えているという数字があります。

これだけ、ものが豊かでいろいろな社会になっていく中で、子供たちを取り巻く環境というのは、非常に厳しくなっているというふうにも感じています。

ここにはないのですが、もっと言うと、気候変動、地球温暖化。昨日の新聞を見ると、例年の9月の平均気温が、今年は2.6度高かったらしいです。ですから真夏日がもう90日を超えていて、非常に子供たちが本当に地球温暖化というか、気候変動を実感していると。ですから、今の子供たちというのは、厳しい環境に置かれているのかということが、今回、この子供を取り巻く環境を自分なりにいろいろな新聞やデータを見て感じている次第であります。

こういう中で、先ほどのテーマにありましたが、子供一人一人に寄り添った白井市内の居場所をどう築いていくか、これを皆さんと率直な意見を交わしていきたいと思っています。

そしてまずは、行政は何をやっているかを、まずは皆さんと共通認識を持っていただきたいと思います。これ以外にやっているのもあると思うのですが、私なりに調べてみると、まずは行政が何をやっているか、ちょっと紹介いたします。

まず、ハード面の場所づくりに行政は力を入れています。一つは学校、そして不登校のためのヤングハート、児童館、公園、児童公園、文化センターも居場所だと思います。そして、複合センターや青少年のセンターも持っています。さらには、運動公園、市民プールが、行政が子供たちに楽しい場所を設置した場所であります。

ここでちょっと宣伝をしますと、今、公園の中の遊具の変更を進めていまして、インクルーシブ備品を整備しています。これから更新に当たっては、障害のある方も一緒に楽しめる公園づくり、これも居場所づくりの一つですが、これを進めているところです。

次は、ソフト面。事業では、どういうものを行っているかという、タブレット。これは、タブレットを一つの子供たちが楽しめるものと思って入れてあります。これと教育委員会では、家庭教育、いろいろな相談をやったり、プログラムを話し合っています。当然、教育相談、そして放課後子ども教室、イベント事業、子供を対象にしたいろいろな教室や事業を、これは指定管理者も含めて、それぞれの部署で取り組んでいます。

そして、子供の学習支援。これは去年から始めた事業なのですが、生活に困っていて、でも勉強をしたい子供たちに学習支援の応援をしています。そして、放課後子ども教室ですね。これと学童保育、さらには学校開放、青少年相談員活動、あとは学校の部活動。こういうものが先ほど定義で言いましたが、子供たちの居場所として貢献している事業だったり、質だというふうに考えています。

これ以外にも、恐らく皆さん、もっとこういうのがありますよとか、あると思います。しかし、自分なりに調べてみると、こういうものが今、白井市内で子供たちの居場所になっているのかなというふうに感じています。

当然、行政以外でも民間の皆さんのやっているものもあります。私は、まちづくりというのは、行政が主体になってやるものと、民間が主体になってやるものと地域住民が主体になってやるものと、これをそれぞれ役割分担のもとで一緒になって政策の幅を広げていきたいと思っていますので、今回、紹介するのは民間の取組です。

私なりにちょっと調べてみると、ハード面では学習塾。学習塾も、ある意味では仲間がいたりするから居場所になっているのかなというふうに感じています。あとは、スポーツ施設。民間のスポーツ施設もあります。

ソフト面でいいますと、子供たちがいるお店。これも子供たちが集まって、いろいろなものに、あと物を選んだりするのにも、お店も居場所になるのかなというふうに今回考えました。

それと、ここにある習い事です。音楽やいろいろな習い事があるでしょう。こういうのも子供にとっては、気が休めて、ほっとする場でもあるのかなと。でも、一方では、嫌々やっている子もいると思うのですけれども、こういうふうにちょっと考えてみました。

さらには、スポーツクラブ。これはいろいろなクラブがあります。そして今回、面白いでしょう、ゲームというのを考えました。楽しさと言われれば、子供にとってルールを決めれば、ゲームはある程度、楽しみなのだろうなというふうに考えています。

それ以外のその他。これは市民団体や地域でやっている活動も含めますが、やっているのは文化活

動だったり、地域型スポーツクラブであったり、この地域型スポーツクラブというのは、白井には全中学校区にあります。そして、障害者を対象にしたスポーツクラブもあります。

こういうものも、子供たちにとっては息抜きだったり、楽しみだったりに貢献しているのかなど。それとスポーツ少年団。さらには、子ども食堂、あとは学習支援。これは市とは別に、市民がボランティアで市民活動団体がやっている活動もあります。

さらには、地域のお祭り。今年になって各地区でお祭りをやっていて、そして子供たちが楽しんで参加している様子を拝見することができました。こういう意味からも、子供たちが楽しむ場、居場所になるのかなというふうに思っています。

こういうような今、市や民間企業、そして地域団体がやっている活動のほかに、先ほど言いましたが、一人一人に寄り添って居場所として欠けているものは何かないかということで、今日、意見交換がしたいのです。自分たちの中では、いろいろな視点でいろいろな取組の中で、その子に合った居場所を提供してあげたい。そういう思いで、いろいろな横断的な政策もやっているのですが、しかし抜けている点があると思うのです。ですから、そこを皆さんと意見交換をしたい。

今回、どのような考えでするかということで、まず私なりに基本理念を考えてみました。子供の主体性を尊重。これは、こども基本法にもありますが、子供を中心にした子供の視点で考える政策というものを皆さんで意見交換をしたいと思っています。

そのためには、まずは子供の声を聴く。そして子供の視点に立って具体的な取組を進めていきたいというふうに思っています。端的に言うと、子供参加です。これから、まちづくり、地域づくりには、この子供参加に力を入れていきたいと思っています。

やはり大人には分からない部分の感性がありますので、当事者の子供の意見、考え方を尊重していきたい。こういうことも含めて皆さんと議論をしていきたいと思っています。

実際に今、子供参加でやっている事業、多分、皆さん知っていると思うのですが、スクールサミットがあります。この子供たちが、非常に政策レベル、プレゼンテーションの能力が高いです。これを若干紹介します。こういうものを工夫しながら、子供の意見を地域活動やまちづくりに生かしていきたいと思っています。

では、昨年度のスクールサミットの事業提案、子供たちの発表を見てください。感動する、感銘するような内容で、これは大人より立派なものがいっぱいありますから。

これから第6次基本構想をつくります。今、第5次の基本構想で、これが令和7年度で終わります。まず当事者、子供の意見というものが、やはり地域づくり、まちづくりに反映する環境をつくっていかねばと思っています。

(00:40:00~00:48:15 動画視聴)

○ これから、南山小学校の発表を始めます。

○ 笠井市長 すごいですよね。台本はないのですよ。

○ 誰一人取り残さず、この地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17の目標と、169のターゲットを掲げるSDGs、皆さん何に関心がありますか。未来をつくる私たちが何を知り、考え、どう行動するかが大切です。今回、私たちは、これらの三つについて発表します。

日本は世界よりも速いペースで気温が上昇しているため、2100年には、5.7度まで気温が上昇すると言われています。では、私たちには、どのようなことができるのでしょうか。対策方法を三つ紹介します。

一つ目は、リサイクルなどをしてごみを減らすことです。なぜかという、ごみを燃やすとき、二酸化炭素が多く排出されるからです。そのためには、ごみの分別、修理できるものは修理することが大切です。また、なるべく買うものを減らすことで、原材料の輸出から輸送までに使われる、たくさん二酸化炭素を減らすことができます。

二つ目は、歩きや自転車移動することです。なぜかという、バスや電車などの移動は二酸化炭素がたくさん排出されるからです。皆さんも、近くでの買い物や遊びに行くときは、歩きや自転車移動して、自然を感じ、楽しんでみてはいかがでしょうか。

○ これから何年たっても住み続けたい白井市を目指しての発表を始めます。

白井市には17の目標の中で、15、陸の豊かさを守ろうと、3、全ての人に健康と福祉をの二つは達成できていると思います。

一方で、白井市は住み続けられるまちづくりができていないと思います。改善策は幾つかあります。改善策は三つあります。

まず、建設会社の設立です。理由は、建設会社を設立すれば、気軽に修理ができると思ったからです。

もう一つは、大手株式会社の建立。理由は、よく皆さんが使っているグーグルなどを建てると、税金などが集まりやすくなり、学校などの公共施設の修理もできるようになると思ったからです。

白井市をより住み続けられるまちにするには、安心・安全なまちをつくる必要があると思います。なので、次は白井市の犯罪件数について説明します。殺人などの事件は少ないのですが、盗難が多いです。その中でも、特に自転車盗難が多いことが分かります。この自転車盗難を減らすための対策を説明します。

対策は大きくまとめると、鍵をかけることです。詳しく説明すると三つあり、一つ目は、少しの間でも必ず鍵をかけるということ。二つ目は、自分の敷地でも鍵をかけるということ。三つ目は、今、つけている鍵に防犯性の高い鍵をつけることです。

○ 私たちは、清水口小学校、残菜率削減プロジェクト、バージョン2.0について発表します。

私たちが調べた理由は、自分たちが飢餓になったら怖いから、一番身近だから、御飯が好きだからなど、それぞれの理由があります。そもそも飢餓とは何だろうと思う方もいるかもしれません。

それでは、まず飢餓とは何かを説明します。飢餓とは十分なものが食べられず、栄養不足になり、健康状態を保つことができなくなった状態のことを言います。

他国だけではなく、私たちの国、日本でも飢餓で苦しんでいる人がいます。日本の飢餓は、従来の飢餓とは違い、一見誰にも気づかれないのです。日本の場合、収入が少ないことが原因で食費を後回しにしてしまい、御飯が食べられないという状況に至ってしまうのです。そして、日本人で20人に1人は飢餓を経験しています。皆さん、このことを知って、どう思いますか。

私たちの住む白井市にも課題があります。様々な課題がありますが、その中でも食品ロスが一番の課題だと考えています。なぜなら、まだ食べられる食べ物も捨てられてしまうからです。とてももったいないですね。

給食や家での食事のとき、私たちは食べ物を残さないことが一番の飢餓をなくすことへの協力なのではないでしょうか。

これから世界は飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保、栄養状態の改善などを行っていかなくてはならないと言われていました。

○ 桜台小学校では、13番の気候変動に具体的な対策をと、14番の海の豊かさを守ろうと、15番の陸の豊かさも守ろうについて調べたことや、私たちに実践できることなどを紹介します。

13番の気候変動に具体的な対策をの目標を達成するために、日本という国としての取組、企業ができる取組、私たち個人ができる取組の三つの視点で考えました。今回は、私たち個人ができる取組について紹介します。

次に、14番の海の豊かさを守ろうについて発表します。私は、海の豊かさを守ろうのポイントである海の資源を持続可能な方法で利用するというに基づいて調べました。私もそこで企業が取り組んでいることを二つにまとめました。

一つ目は、プラスチックをあまり使用しない商品を開発したり、プラスチック商品の店舗回収です。プラスチックをあまり使用しない素材を使った商品を作れば、海の環境を守る取組にもつながり、プラスチックを燃やすときに排出される有害物質も少なくなります。

二つ目は、海の資源を持続可能な方法で利用した商品の開発です。

次に、15番の陸の豊かさも守ろうについて発表します。

僕は、15番の陸の豊かさも守ろうという観点で調べ学習を進めていたところ、このような写真を見つけました。このようにごみがたくさんあると、動植物に悪い影響があると考えました。世の中には、ポイ捨てをしている人がいるという現実を知りました。

そこで、桜台小学校の5年生にアンケートを取りました。アンケートの内容は、ごみが道端にあつたらどうするかです。積極的にごみを拾うが7人、放っておくが19人、よく分からないが4人と、意識している人が少なかったです。

○ 笠井市長 どうでしたか。小学6年生がこれだけデータを分析しながら調べて、自信を持って発表する。だから、子供たちの意見を聞かないで、地域づくり、まちづくりはできないのではないかということを私は実感しています。

これだけ自分の目の前のことを長期的なことの課題も考えながら、今、自分たちが何をするかを子供たちは考えています。

ですから、先ほども言いましたが子供参加、これを今後は今以上に進めていきたい。その一つの事例が、今日、ここに企画政策課の課長とか松田君がいますが、次の第6次基本構想は、子供たちにいろいろな政策提案をもらって、その中で子供たち同士で議論をして、何がこの地域、このまちに必要なかを、そのプロセスを大事にしてほしいということを訴えています。

それ以外でも、子供に関係するものについては、やはり当事者の意見を聞きながら、そして進めていきたい。こういう姿勢を貫いていきたいと思っています。

大人が思っている以上に、子供たちは非常に真剣に、現実の問題とこれから起きる問題を考えて行動していると思いました。

これは、恐らく教育委員会さんもそうだけれども、当事者の学校の先生方がいろいろとバックアップをしながら、こうやって立派なものに作り上げてきていると思っていますので、大事なことは、今



を生きる人もそうですが、これから、この国、この地域がどうなるのか、これを子供たちに考えていただきたいというふうに思っています。

先ほどは基本理念を言いましたが、ここで私なりに考えた基本的な考え方をちょっと説明をさせていただきます。

まず、心身の状況、置かれている環境などにかかわらず、誰一人取り残さない居場所づくりを築くことにより、子供の生活を豊かにすることを基本的な考え方にしています。そして、こういう環境をつくるのが、白井市民全体の生活の豊かさにつながってくるというふうに思っています。

今日は、この基本的な考え方、心身のいろいろな状況がありますけれども、こういうことも経済格差もあるのだけれども、誰一人取り残されなくて、子供たちの居場所を提供するためにどうしたらいいかということを、皆さんと議論をしていきたいと思っています。

今回、意見交換するテーマは非常に幅広い内容で、居場所とは、簡単なようで実はずっとやっているのだけれども、なかなか難しい。でも、今回、皆さんと意見交換したいのは、ある程度少し絞りました。

「子ども一人ひとりに寄り添った居場所づくり」を実現するために、まずは先ほど言いましたが、行政の取組や民間の取組、そして、その他の団体のやっている取組について、これはいいよね、これはこういうところが欠けているよねということ、まず初めに、既存の取組をみんなで議論をして、そして何か工夫するもの、伸ばすものを議論したい。

その上で、今までやっている取組で欠けている部分があるねと、先ほど言ったように、一人一人残さないということで、こういう人たちの居場所がまだないよね、ということ、議論をしていきたいというふうに思っています。

ですから、まずは今やっている事業、取組について、皆さんで、あれはいい、これは駄目とか、もっとしたほうがいいということ、議論したい。その上で、ちょっと少ない、抜けているものがないかということを進めていきたいと思っています。

そして、居場所というのは、何も地域、まちだけではないと思っています。私は今回、皆さんと議論したいのは、政策の方向性は、まず居場所というのは家庭にもなくてはならないものだと思います。ですから、家庭の居場所というのをまず皆さんで分類をして議論をしたい。その上で、学校、地域、まち、こういう四つの視点から居場所が本当にその子にあるかどうかを話していきたいと思っています。

なかなか居場所というと、ごちゃごちゃになってしまいますので、まずは家庭に、安心してそこで楽しくいられる時間帯、空間があって、まず、そこは私は出発点だと思っているのです。家庭に居場所がない子が、地域や学校というのはなかなか難しいわけです。まずは家庭で安心して暮らせる環境をつくりながら、そして、それでも駄目だったら、地域や違う場所にもそういう居場所をつくってあげる。こういうような話の議論を展開していきたいなというふうに思っております。

ここで1時間たちますので、10分間休憩を取っていいですか。

今、そこにお手元にある資料を見ながら、次は、実際に皆さんでこの四つの視点に沿った、これも含めて居場所づくりを議論をしていきたいと思っています。

では、10分間休憩をお願いします。

午後3時23分休憩

---

午後3時31分開議

○笠井市長 それでは再開しましょうか。

先ほど話をしましたが、市も含めていろいろな取組をやっているというふうに考えているのですが、先ほど言ったように、抜け落ちている部分、こういう部分がまだ足りないというところがあると思うのです。それを皆さんに忌憚のない御意見を確認したいのです。そして、それが本当に子供たちにいいかどうかの、これからの政策の一つのヒントにしていきたいと思っています。

これは、なかなかこれをやれば全ていいというのはないと思うのです。というのは、子供たちの置かれている状態が違うし、子供たちの考え方が違うと思うのですね。

ただ、保護者目線、教育委員としての目線で、こういうような子供たちを救うためには、こういうのがあったらいいよね、こういう事業をこうふうに変えていったらいいよねということを忌憚のない御意見等、率直に聞きたいのです。

これから次の、先ほど言いましたが、第6次の基本構想をつくります。そこには、必ず子供たちの意見も反映しますし、また子供を持っている保護者目線というのも考えていきたいと思いますので、ぜひ教育委員さんとして、いろいろな日頃お考えになっていることを忌憚のない御意見を頂きたいと思います。これは正解がないと思うのです。ただ、気づきを皆さん言っていただきたいと思っています。

今回、皆さんの意見を黒板に書かせていただきたいと思います。書くのは、企画政策課のこれから計画をつくる担当の松田さんです。もし漢字が違ったり字が間違えていたら、御指摘をお願いしたいと思います。

では、まず一つ目の視点、家庭。まず家庭にとって、今、何が大事か。こういう部分を市として取り組んだらいいとか、あとは家庭にこれをしてもらいたいとか、そういうのがありましたら、御意見を頂きたいと思います。何でもいいですよ。先ほど言いましたように、正解というのはなかなかない。だけれども、日頃考えている、そういう家庭があるよということも少し含めて、意見を言っただければ。

大体、意見交換は1時間です。ですから、一つのテーマで20分ぐらいか、15分ぐらい。

では、まず家庭について何か今やっている、市がやっている、市では家庭教育をやっています。家庭相談もやっています。今回、また新しく教育委員会で、いろいろな教室を考えているみたいです。そういう部分も含めて、何かありますか。別に正解を求めているわけではないですから、意見を言ってもらうために。では、自分からどんどん振ってしまいますよ。

松田委員さん、何かありますか。

○松田委員 私は難しいテーマだなと思ったのですが。

○笠井市長 いいですよ。違うテーマでも、得意な分野で。

○松田委員 どうですか。家庭というのは何か難しい。難しいです。

○笠井市長 では、いいですよ。

○松田委員 例えば、ごめんなさい。地域としてとか。

○笠井市長 はい、いいですよ、地域。いろいろなボランティアをやっていて、お考え、感じていることがいろいろあるでしょう。

○松田委員　そうですね。自分が子供だったときの頃と、やはりついつい比べてしまうのですけれども、今の子供たちは、制限とかルールが昔より多くなっている。公園はあっても、ここではボール遊びは駄目、何はしてはいけない。あとは、安全性が最優先になっていて、ちょっと遊具が少ない公園が多かったりとか、だから公園とかそういうハード面で整っていても、子供たちが望むような、子供たちが欲しいなという場所になっているのかなというのは、ちょっと疑問があるところです。というのが一つ思いました。

○笠井市長　では、一つは、公園があっても、子供たち、いろいろな子供が遊べる遊具が不足しているという一つ意見ですよ。それと、あまりにもルールが厳しいのではないかということですね。

○松田委員　そうですね。

○笠井市長　分かりました。では、ちょっとそれについて自分の周りの意見を言うと、確かに公園は駄目駄目ルールが多いです。これは、よく市長の手紙にもいっぱい来ます。例えばキャッチボールをしたいから、何か。どうしても行政は、いろいろな人が使うためのルールを決めているので、例えば、そのキャッチボールしたボールがほかの子供たちとか、ほかの親に当たった。壊れてしまったと苦情があります。

そうすると、どうしてもルールを決めなくてはならない。でも、自分は今言ったのは大事なことだと思うのです。その代わり、子供たちでこの中のルールを決めていく。これも重要だと思っています。ですから、全て駄目ではなくて、ある程度、そういうものが制限が自由にできるような場をつくっていくことは必要だと思います。そこに子供たちが、言って終わりではなくて、自分たちでそういうマナーなりルールを決めながらやっていく環境をつくってみたいなと思っています。

遊具については、先ほど言いましたが、障害のある方たちも使えるような遊具をこれから整備していくし、整備する前には、事例でもいっぱいあるのですけれども、利用者にアンケートをやったり、聞いたりもして、遊具を整備しています。ですから、このスタンスはこれからもやっていきたいなと思っています。

それから一方で、お金の話なので、一遍にどっとはできませんけれども、少しずつ少しずつ、そういう考えのもとに整備をしていきたいと思っています。ありがとうございます。自分たちでそこも、やはり手紙が多いので、そう思っているのです。

ただ、周りの人たちの理解も必要なのですよ。例えば公園があると、うるさくていけないなんて、長野市であったではないですか。そういう苦情が来て、一気に変えてしまった。これは地域の人にもお願いしたいのですが、子供たちを地域全体で守って応援してあげるといような機運というのを先ほどのコミュニティーにつながりますけれども、こういうものも説明しながらやっていきたいなと思っています。ありがとうございます。

では、今度、男性の齊藤委員。何でもいいですよ。

○齊藤委員　テーマが幅が広過ぎて、なかなか。

○笠井市長　いいのですよ。答えなんて、ないのだから。

○齊藤委員　いろいろ市長のお話を聞きながら考えていたのですけれども。私、一番難しい家庭としてというところで、今、日本の社会もそうなのですけれども、格差社会がすごく進んでいると思うのです。今月一日から、また何百種類という食品も値上げしていたり、今、ガソリンの高騰とかも進んで、稼いでいても生活が自然と苦しくなる。生活が苦しくなれば、当然、また稼がなくてはし

がないので、特に奥さんなんかは、副業、パートで出ると。

そうすると、家には親がいない状態。そこに子供を帰っていても、結局、子供の居場所に1人しかいないと。先ほど松田委員の話もありましたけれども、自分の子供の頃はどうだったかという、同じように貧しかったですね。いろいろなものがない時代で、でも、その中で子供たちが集まって遊んでいたり、そういうことはあったと思うのですね。

ですので、まず家庭の格差社会とかを直すというところ、白井市だけではなかなか難しいとは思いますが、これは本当に今の岸田総理にでも言って、どんどん改革していってもらわなければいけないのかなと思う、そんな大きいテーマになってしまうのかなと思いますね。

それと同じように、ヤングケアラーなんかの問題も絡んでくるのかなと思ひまして、ちょっと難しいテーマの意見交換ということですので、答えがないということだったので、この格差社会をどうにかしていかないと、子供の居場所というのは、なかなか行政として一生懸命やるのも難しい、ある程度の幅しかない。

地域としても、今、コミュニティもだんだん少なくなっている中で、やはり家庭が一番いる時間が多いと思うのですね。例えば、家庭教育なんかでもそうですし、家庭の中の教育なんかもすごく大切なのですが、その教える親がいない。なぜ、いないかという、この格差社会で働かなければいけない。そういうふうになってくると、この国全体がちょっとひもじい国になってきているのかなと、ちょっと思いながら。意見交換のテーマになるかどうか分からないのですが、答えになるか分からないのですが、そんなことを考えていました。以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。これは経済の問題、自分の中で思うのですが、共稼ぎでなくても暮らしていける環境をつくるのが本来ベストだと思っています。それだけの賃金や報酬を、稼げるだけの所得を得る、これが本来やるべきではないかなと。

ただ、今、労働人口が少なかったり、なかなか所得が増えないから、共稼ぎという政策のほうに国全体で移行している部分があるのだけれども、本来は、誰か1人の所得で暮らしていけるのが理想だと思っています。

今、齊藤委員さんが言ったように、これは国が所得、賃金、この問題をやっていかなければいけないのではないかと、今、これからやっている、国がやっている、こども未来戦略会議。そういうところにスポット当てればいいのだけれども、子供の世帯だけに何か政策を、例えば児童手当を上げたり、拡大したり、そういうことではなくて、本当は全体のビジョンを議論すればいいのだけれども、そういうふうになればいいなと思っています。

例えば、無償化にすればいいかという話ではないと思うのです。やはり安定して、安心して、暮らせる環境を提供することが国がやるべき戦略だと思っています。そういう中で、地方として、市民に一番身近な自治体としてやるべきことというのは、先ほど貧富がありましたけれども、格差。

例えば、勉強がしたいのだけれども、なかなかうちの収入では行けないから、そういう子供たちを応援することは、これは地方でもできるので、そういうような部分をやっていきなさい。意欲があるのに、家庭環境やいろいろな状況の中で何かできない。本来、これは自分の中では、国がちゃんとした制度設計をつくってやるべきだけれども、なかなか国はそこまで手が回っていないのだったら、地方として、白井市民が学びたい、スポーツしたい、音楽活動したい。こういう子供たちを応援することは、地方としてもできるのかなというふうに思っています。ありがとうございます。

本当に、この居場所というのは難しいテーマ。だから、なかなか答えが見つからないし、でもいいのです。いろいろな人の立場になって考えることが大事だと思っているので、答えを求めようとは思っていません。自分もずっと考えていて、なかなか答えが見つからない。

もっと言うと、子供たちが今、白井で6, 000、7, 000ぐらいいるのですかね。その子供たちに全部スポットを当てるとするのは、なかなか難しい。だけれども、ある程度、平等に子供たちを支援していきたいなと思っていますので、ですから、いろいろな意見を確認したいと思っています。

では、すみません。自分だけしゃべってもあれなので、久保委員さん。

何かあれば、この四つのカテゴリー、これ以外にもいいですよ。何か自分が活動していて気がついていること、この部分がちょっとどうだろうという話があれば、お願いします。

○久保委員 お願いします。

私の近所の公園に、この夏休み新しい遊具が入りまして、暑かったせいもあって、全然子供がいない公園だったのですけれども、遊具が完成してから、子供たちが毎日見に行くのですね。いつから使えますというネットがいつ取れるのだろうかというので、取れるという日には、朝から子供たちがそのネットが取れるのをずっと心待ちにしていました。本当に取れた日には、こんなにこの地域には子供がいたのだというぐらい、小さな子から大きな子まで集まって公園で遊んでいたの、やはり公園というのは、子供たちにとってすごく魅力のある場所なのだなというのを感じました。

私自身、今、富士に造っている公園もすごく楽しみにしているのですけれども、やはり公園が整備されて、子供たちがいられる場所というのが、まちとして整備していただけたらうれしいです。

あとは、子供の居場所がたくさんあることはとてもいいことだと思いますし、子供たちがそれを選べれば本当にいいなと思うのですけれども、今いる場所は大人がつくっているところなので、ここに行ったらスポーツをする、ここに行ったら勉強を教えてもらえるという、やることが割と決まっていて、選ぶというのは、子供にとっては難しいのかなと思うのです。

子供に何をしてほしいかと考えたときに、遊んでほしいなと考えるのですけれども、自分が子供のときには、時間はたくさんあって、遊べる場所が公園ではなくてもたくさんあって、行けば誰かがいてという、本当に遊びができる環境で育っていて。ただ、自分の子供を見ると、遊ぶには約束が必要で、日程の調整が必要で、最終的にみんなの都合が合わないから遊びはなくなったということが多くて。家庭としては、遊びは大事だから、子供に遊べる時間とか、仲間については、学校とか地域とも関係すると思うのですけれども、いつでも遊べる仲間がいるというのは幸せなことなのだよいうことを家庭として、親が知っておいてほしいなというふうに思います。

子供の立場として言えば、いつも大人に見守られていて遊ぶわけではなくて、自分たちだけの世界で遊びたいというのもきっとあると思うので、公園もそうですし、あとは、もしできれば可能だったらなのでも、こどもの広場というか、こどもの森というか、その中だったら何でもしていいみたいな遊び場があって、そこへ行って、自分の好きな、本当に木の実を拾ったり、いた子供同士で鬼ごっこしたりとか、用意しなくても子供はきっと勝手に遊び始めるものだと思うので、そういう場所があったらいいなというふうに常々思っています。

○笠井市長 ありがとうございます。いろいろなヒントを頂いて、実は市民の森というのがあるので、すよ。

○久保委員 あるのですね。

○笠井市長 はい。だけれども、そこが認知されていなくて、なかなかそこまで行くのに大変な部分があるので、そこは、ある程度、自然と親しめるような森ですので、ぜひそこはアナウンスをして、子供たちが工夫をしながら行けるようにしたいと思っています。

あとは、今、公園とありましたよね。確かにそのとおりで、この隣の公園、白井総合公園。これ、週末すごいですよね。家族連れで、こんな近くにできて、あんなに子供たち、家族がいるのかと思うのと、自分たちで工夫しながら遊んでいる。ですから、あれは非常にいいなと思っています。

そういう中で、富士の公園も来年の3月にはオープンいたします。遊具も子供たちにいろいろな意見を聞いて、アンケートを取って、そして障害のある方も使えるような遊具に整備しています。ですから、やはり子供たちの居場所というのはあったほうが良いと思っています。その場の使い方のルールを、先ほども言いましたが、子供たちにも考えてもらって、自分たちでルールを決めてやるということも大事だと思っています。

当然、周りの地域住民にも、子供たちをみんなで守っていくのだということの意識を醸成しながら、進められれば良いなというふうに思いました。

あと、仲間ですよ。自分たちなんかは、昔、何もなかったですから、齊藤委員ね。

○齊藤委員 はい、そうですね。

○笠井市長 田んぼしかないですよ。公園もないし。そうすると、何するかというと、野球ですね。野球をやったり、プロレスやってみたり、今はそういうことはできない。周りが危ない、危険だとか言ってね。でも、本来、原点に戻るといって、自分たちで場を見つけて、そしてルールを決めて遊ぶことが一番楽しいですよ。それが社会人になっても生きると思うのですよね。だけれども、今の子供たちというのは、いろいろなものをつくってくれたし、いろいろな情報も入ってきて、なかなかそれを活用できないという実態だと思う。

さらに言うと、部長、子供のスケジュールは大変なですよ。習い事がいっぱいあって、いろいろなことをやってきて。

○宗政教育部長 そうですね。

○笠井市長 大人より忙しいですよ。

○宗政教育部長 はい。

○笠井市長 だから、そこは家庭にもっとアナウンスをして、子供たちが自由にできる時間というもの、それも大事ですよということを家庭教育の中でやっていく必要がありますよね。それと地域住民にも、子供たちを地域全体で守るし、応援するのですよという環境づくりをやっていくことも大事だと思っています。

本当に、本当はシンプルなですよ。だけれども、それを難しく、難しく、いろいろなふうに考えてしまっていることがあるのではないかというふうに、この問題をずっと考えてきて、今の子供たちと昔の子供たちとどっちが幸せだと思ったら、どっちが幸せなのだろうねと、昔は何もなかったよね。お金もないし、環境も劣悪ですよ。だけれども、自由でしたよね。

今の子供たちは、ものはあるし、いろいろな情報もある、でも自由ではないですよ。何かあれば、すぐいろいろな人が干渉して、誹謗中傷をネットでされてしまう。こういう中で子供たちが生きているということは、本当に大変なのかなと思っています。

でも、それを地域全体で少しでも理解してあげることが大事なのかなと思いますので、当然これは

地域コミュニティの中でも、みんなで地域の子供たちを守っていきましょうねという啓発はやっていきたいと思っています。それが犯罪抑止にもなるし、いい大人にもなりますので、そこは引き続きやっていきたいなと思っております。

では、中里さん、いろいろあるでしょう、言いたいことを。

○中里委員 厳しいですよ、最後は。

○笠井市長 どうぞ、いいですよ。

○中里委員 まず、このページの前の意見交換というテーマで、現行の取組の評価はと考えると、自分自身がそれほど、この先ほど説明を受けた取組を見ていないというのがあって、評価は難しいと思うのですが。今後の必要な取組は、白井市の下手なPRだとか、宣伝が下手というのをどうにかしていかないと、誰も知らない。でも、市はやっていきますということが多々あるので、それと、いろいろ取り組んでいるものに対して、いまいち市民は近寄りがたいという雰囲気がある気がするので、その辺の改善があればと思いました。

それから対策の方向性で、私の中では、この行政としてというのが地域、家庭、学校の真ん中に丸であってほしいという考えがありまして。どうしても先ほどの話だと、昔はこうで良かった、今はこうで大変だ。でも、それを埋めるためにはどうするとなると、この少子化で、高齢化で、では誰がやるとなると、行政が今までのいろいろなものに代わってサポートしていくのが一番ベストかなと思ひまして。

その中で、例えば、学校としてであれば、確かに今、子供たち、いろいろな格差がありますけれども、それは全て人間がつくり出したものであって、それを学校としてどうしていくかとなると、やはり道徳教育だったり、もっと地域の人との触れ合い、例えば職業体験がなくなったりとかいろいろありますけれども、もっと地域と結びつけていく。受験だけではなくて、そういう教育もできればと思います。

また、これも行政につながってくるのですけれども、家庭教育でも、例えば少子化になって、核家族になって、じいちゃん、ばあちゃんと暮らす、しゅうと、小じゅうとと暮らすのは、うっとうしい、面倒くさい。そういうふうになってきて、それをみんな容認してきているので、結局、昔、じいちゃん、ばあちゃんがいたときの何か生活の知恵とか、あとは親が怒るけれども、その分はあめとむちで、じいちゃん、ばあちゃんが甘やかすとか、そうすると、子供は、一方的にぎゅうっとやられないので、こっちは甘えられるので安心があってとか、そういう雰囲気がやはり必要なのかなと。

それを今の核家族でつくろうとするのであれば、いきなり老人ホームへ行ったりとか、じいちゃん、ばあちゃん呼び戻してなんてできないので、それは市のほうで、もっといろいろなサポートができるシステムをつくるなり、もしくは、今、マニュアル社会とも言われているので、結局、家庭、人間、子供は十人十色で難しいのですけれども、それにちょっと手助けできるマニュアルを市のほうで考えると、そうやってやっていくと、虐待から何から、ヤングケアラーというのでも減っていくと思うし。

また、自分たちの頃は、学校の先生は絶対という教育で、学校で先生に怒られたのは、家に帰って先生に怒られたと言うと、余計怒られたという世界があったのですけれども。親もそうやって子供のことを考えられるようになっていけば、学校であったことも共有していくのだろうし。

親によっては、スマホばかりいじって子供の話を聞かないという方も増えているとは思いますが

れども、子供は親が話を聞いてくれなければ、また今度でいいやではなくて、今度はだんだん、ほかの人、周りの人、先生たち、大人に対しても、どうせ言ったところで大人は聞いてくれないやとなってしまうので、そうすると、基本理念の子供参加が成り立たなくなってしまうので、その辺もケアできるような家庭教育を行政が担っていければと思いました。

最後、地域なのですけれども、昔は子供会があって、青年部があって、子安講があって、老人会があってといろいろなものがある、雷おやじから、いろいろな人もいましたけれども。結局、今の社会にそれを転換するとなると、そのやってきたことを誰がやるというと、やはり行政になってしまう。

例えば、神々廻の神社とか、あちらのお祭りとか、細々とやっているところもありますけれども、それはあくまでも今までの風習で、そこに絡む地域、子供たちというものが今、減っている、それに代わるものを行政が間にあっていただくほうがよいのかなと思いました。

最終的に、結局は子供は、メンタル面、心の部分をどうにかしていかないと、それに対して、大人たちも、もう一度考え直して、大人たちも心を入れ替えていかないと近寄っていかないと考えたのですけれども、場所づくり、居場所づくり、プラス、そこにいて安心できるという、居場所ではなくて、雰囲気のみちというのも加味して取り組んでいただければいいのかなと思いました。以上です。

○笠井市長 いろいろな幅、展開があったけれども、行政が全てやるという発想は、俺は違うかなと思っています。

○中里委員 全てではないですよ。手助けなのです。

○笠井市長 行政がプロデュースするということは賛成です。例えば今、国を見ていると、0歳から子供を預かって、どんどんやっていく。そうすると、さっき言ったように、家庭とか子供はそれが本来はあるべきなのではないかなというふうに思っています。あまり行政とか国が家庭教育とか学校教育に関与することは、これは本来違う役割だと思っています。いろいろ言われたけれども、でも、やはり行政として全体をプロデュースすることは、役割として思っています。

ただ、どこまで踏み込んでいくかということは、また違うというふうに思っていて、自分がやりたいまちづくりというのは、いろいろな地域や場面、場面でいろいろな人と関わって連携をして、ネットワークをして地域社会をつくっていききたい、まちをつくっていききたいという発想なので。参考になるけれども。

もう一つ言われた町のPR。確かに町の知名度がなかなか低いのは実態です。ですから、これはこの市の持っているポテンシャルをどうやっていろいろなものにつなげながら価値を高めていくか、これは課題だと思っています。

その中で、一つ、今、広報も少しリニューアルをしていこうということで、今、議論しています。

それと、いろいろな政策をそれぞれの部署でやっているのだけれども、これが横断的な検索ができない。こういう問題を指摘されているので、ある程度、例えば、子供とかテーマごとに検索できるような仕組みというのをも考えていきたいなと思っています。

あとは、もう一回、自分の中で、地域の人たちが子供たちに関わる時間というのをもっと増やしてほしいというのがあるのです。

防犯とか安全対策というのは、地域住民もそこに関わる。これは学校や行政だけがやるものではな



くて、警察だけではなくて、みんなで守るという、そういう機運を高めるための戦略は、当然、行政がやらなければいけないのだけれども、実行するのは、いろいろな人に関わってほしいのです。そのことが子供たちのためになると思っていますので。意見は十分に分かりました。

では、全員が終わったので、教育長も委員ですから、教育長も言いたいことがあるはずでしょう。どうぞ。

○井上教育長 この四つのポイントで話を考えると、ポイントとして私が考えたのは、まず家庭については虐待ですね。虐待が小さい頃行われている子供は、多分、居場所はなかなか見つけられなくなってしまいますので、家庭においては、虐待を絶対なくすということを何らかの方法でやらなければいけないなど。

ただ、教育としては、啓発はできるのですけれども、直接的な指導はできないので、親には。なので、ここは難しいなという。とにかく虐待をなくさなければいけないなということとか、二つ目の学校としてというのは、不登校の問題ですね。

今、これを白井も、数として、割合として少なくはないので、いろいろやってきているのですけれども、大きく取り組まなければいけないなというふうに感じています。

今、その拠点としているのがヤングハートしろいなので、教育支援センターというふうに名前を変えたのですけれども、もっと幅広い支援をしていこうということで名前を変えたのですけれども、以前から課題になっている、場所があそこがいいのかということも含めて。これについても、ずっと前から研究というか、考えてはきているのですが、そもそもヤングハートしろいの立ち上げに携わったのは僕だったので、最初からあそこでやってきたのですけれども、あまり目立たないという場所で、しかも、ある程度、卓球とかスポーツもできてという幾つかの条件が重なっていて、あそこがよかったのですけれども、耐震は大丈夫なのですけれども、場所として、もっといい場所はないだろうかということはずっと考えてはいて、検討してきているので、探したいなというふうには思っています。

それから、地域としてというのは、コミュニティーづくりであると思っていて、この前の教育委員会議で話題にしたのですけれども、コミュニティー・スクールをまずは来年度、桜台小・中から始めるので、その次は全校に広げていくので、このコミュニティー・スクールが、地域のコミュニティーづくり、子供も含めたコミュニティーづくりに役立ってくれるといいなというふうに思っています。

最後に、行政としてというところなのですけれども、これは僕の印象で言ってしまうとあれなのですけれども、市の力を入れている子供たちへの環境というと、公園とか児童館とかということで、イメージとしては、小学校の低学年までというのが僕のイメージなので、それ以上の小学校高学年、中学生、高校生に対する環境づくりというのも必要なかなと。

それは、方法はいっぱいあると思うのですけれども、居場所ということで、例えば、昔、不良がやっていたと言われたスケートボードとか。スケートボードをやるのはみんな不良とか、それからストリートダンスとか、道路を突っ切るのは、みんな不良とか。今は、これはみんなオリンピック種目になっているので、時代はどんどん変わっていくので、そういうような場所。なので、偏見を持たずに、行政も柔軟に考えて動く。柔軟に考えて、広く、お金もかかると思いますがけれども、やっていけるといいなというふうに思っております。

最後に、昔の子供と今の子供があるのですけれども、僕はこれをいつも思うのですけれども、間違いなく能力的には今の子供のほうが優れているので、さっきのスクールサミットではないのですけれど

も、僕らはあんなことできないので、もちろんタブレットもなかったの。なので、間違いなく子供は進化しているので、未来をつくるのは必ず子供なので、やはり子供にはお金をかけるべきだなというふうに思っています。以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。

では、自分の考えを一つ一つ言っていきますと、まず児童虐待、家庭の話ですよ。多分、教育部門だけでは難しい、当然、福祉分野とか児相とかの連携も大事だし、そのためには、情報共有というものの仕組みが大事だと思っています。

さらに言うと、そういう情報が地域からも入ってくる仕組みづくり。これをやっていけば、ある程度、早期に発見をして、早期に対応できるようになると思います。

ただ、根本的な対処法ではないですよ。やはり家庭でしっかり子供たちを面倒を見るということが、そういうことが、難しい話なんですけれども、継続して訴えていかなければいけないことがあるというふうに思いました。

学校の関係で、不登校の関係がありますよね。確かに先ほど言いましたが、小学生で四十何人、中学生で百十何人もいて、今のヤングハートだけでなかなか手詰まりになるし、あの場所も、あの区域でいいかという議論もありますので、これは今後、第6次基本構想の中でも、この面について、ちょっと考えていかなければいけないというふうに自分では思っています。

その辺は、よく会議でも話しますけれども、それだけ不登校が多いと、同じような条件はないのですけれども、ある程度、整理をしていきたいなと思っています。

地域の部分がありましたよね。コミュニティ・スクール、いいと思います。自分がつくっている、まち協というのは、そういう部分なので、地域の問題を、子供の問題や高齢者の問題、あとは防犯問題も、地域でみんなで力を合わせて考えていく。そのためには、開かれた部分が必要ですので、ぜひそれはお願いをしていきたいなというふうに思っています。

それと、居場所。確かに、さっきも久保委員から言われたのですけれども、あまりにも公園が駄目な部分があって、今、はやっているようなバスケットやスケボーなんていうのも、本当は造ってあげたいのです。

ただ、それは先ほども言いましたように、地域の方が、全て行政にあれをやってしまっただけは駄目、これは駄目なんてクレームが来るから、なかなか手が出せないことにありますので。でも、そこは子供たちの視点になれば、やはり整備してあげたいと思っているので、これも今後、ルールづくりも含めて、地域の人たちも議論しながら考えていきたい問題です。

確かに、今の子供たちは能力が高いですよ。高いから余計苦しんでしまうのです。昔は能力なかったから、そんなに苦しまなかっただけで。今の子供たちは本当に苦しいと思います。それは、社会が監視社会だし、あまりにもいろいろな厳しいことを求めるので。ですから、そこはもう少しゆったりした空間なり、地域社会を築いていきたいなと思っています。これについては、今後、次の計画をつくりますので、そういうことも、当事者の子供を含めて議論をしていければと思っています。ありがとうございます。

まだいろいろ時間があるので、このほかにもありますか。

この問題は、今回のテーマの中で、答えがなかなか見つからないのだけれども、いろいろな人の立場を考えてあげることが大事なのだろうなと思って今回のテーマにしています。ですから、あれもこ

れもというのがあっていいのです。

最終的には、先ほど言いましたが、これからつくる計画の中に、子供たちも交えて、一つでも子供たちの思いが実現できるようなものを取り組んでいきたいと思っていますので、今日は本当にいろいろな御意見を言ってください。

自分は、国がこれから考えているこども基本法、こども家庭庁、これから、お金をつけるということども未来戦略会議、この中身をぜひ見たいなど。本当にそれが子供の視点になっているかどうか、どちらかというところ経済だったり、保護者だったり、その視点になっているのではないかとということで注視をしていきたいと思っていますので、今回、皆さんと議論したかったのは、子供の立場で何が必要かということの話ですので、何かまた意見があれば、お願いします。

まだ少し時間があるので、言い足りない人あれば。

では、自分のほうから、スクールサミットを、今回、3回目ですよね。やってみて、毎回言っているのだけれども、これはすごいですよね。政策提案能力。あと、現状分析をして、こうなってくるシミュレーションを考えたりしていますので、先ほど紹介されたものなんて、本当にこれからやらなくてはいけない話がありますので、こういうものもしっかり受け止めながら進めていければなと思っていますので。

ぜひ教育委員さんの、やはり政治家はなかなか教育の中身というのは、私は触れてはいけないと思っています。そこは役割分担なので、子供たちが先ほど言ったように、いい条件の中で安心して暮らせるような環境をつくるのが私の役割だと思っていますので、ぜひ皆さんは、子供たちの教育とか生涯学習とか、いろいろな視点で議論をして、少しでも市の政策レベルを高めていただければと思っています。

ただ、常に傍聴がいますから、そこは大変かもしれませんが、その前に事前準備をして、いろいろな意見を頂いて、その意見を教育委員会に提案があったものについては、また議論をして政策に入れていきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

何か意見、言いたいことはありますか。あれば感想でも、自分たちが仕事をやっていて、これが悩みというのがあれば。今日は、別に意見交換なので、何かをやろうという話ではないので、気づきの視点を皆さんに聞いているので、何かあれば。時間もあるから全部聞きます。

学校をつくる立場として、何かありますか。

○落合教育総務課長 教育総務課の落合と申します。

私、教育委員会に来て1年目でございます、本当に委員さんたちの生の御意見を聞くというのは、本当にこの1年で初めて経験したことでございますので、大変勉強させていただいているところでございます。そういったことですので、意見というか、本当に今、勉強させていただいているところなので、大変今日は勉強になりました。ありがとうございました。

○笠井市長 一つ宿題がありましたね。ヤングハートをどうするか。

○落合教育総務課長 そうですね。そこは、頭に入れておきます。

○笠井市長 分かりました。では、教育部長。

○宗政教育部長 自分のほうは、ずっと聞かせていただいて、市長さんからも出ていた、中里委員さんのお話の中で出ていた、行政がプロデュースして、それで地域の人たちがある意味、中心となって活動するような、そういうふうにできたらすごく盛り上がるだろうなど。お膳立てという言い方は

ちょっと悪いかもしれませんが、行政がするのだけれども、実際のパワーは、地域の人たちがその気になって動いてくれたら、きっと活性化していくのだらうなというのは聞いていて感じました。

そして、これだけ子供を中心にとか、これからの子供たちのためにとという部分で考えますと、本当に市民が、皆さんが興味関心を、子供の教育について関心を持って、みんなで育てようというような、そういう雰囲気とか、そういうようなまちだよというふうになっていったら、すばらしいだろうなというふうに思いました。感想でございます。

○笠井市長 ありがとうございます。部長が言ったように、自分はそういうまちをつかって、そういう地域社会をつかっていきたいし、そういう町を見ていきたい。行政だけが応援するのではなくて、そこに住む人たち、いろいろな人たちが、子供が白井の宝だということを意識しながら、活動するなり、行動する環境づくりをしていきたいのですよね。そのほうが、誰一人取り残さないためにいいのではないかと思っているのですよね。ありがとうございます。

最後に、村越さんには、これから計画に含めるための、山本課長も生涯学習をやっているから、何か御意見があれば。

○山本生涯学習課長 私が言うのもちょっとおこがましいのですが、やはり子育ては家庭が基本なのかなというふうには感じています。

生涯学習課としては、家庭教育学級のほうを事業として実施させていただいていますが、やはり共稼ぎ世帯の増加というところで、お父さん、お母さん、非常に時間もない中で、子育てに割ける時間というのは、なかなかつくれないのかなというのも実態としてあるのかなというところはあると思うので、家庭教育として、子供と対する時間がたとえ短かったとしても、その子供に対して肯定感が持てるような接し方をしてあげられれば、子供の居場所というのは、おのずとできるのかなと思いつながら、お話は聞かせていただきました。

中里委員からも、手厳しい、PRが下手だというようなお言葉を頂いていますが、これは、いつも事あるたびに行政に言われていることなので。家庭教育学級のほうも、今、ユーチューブで配信なんかもしていますので、時間がない中でも、ちょっと時間が取れたときに、そういったユーチューブを御覧いただくとかということでも、事業としては、成果は出せるのかなとは思っていますので、そういったPRのほうもちょっと力を入れていきたいなというふうには感じたところです。どうもありがとうございました。

○笠井市長 ありがとうございます。参加してもらって、率直な意見を聞いて参考になると思うのですよね。それをせっかく受けたのだから、それがすぐできるものは、ぜひやっていただきたいと思います。

自分も、やはり家庭教育が大事だと思っているのです。それは子供と接する時間が長い短いではなくて、子供をやはり認めてあげる、支えてあげる、こういう雰囲気づくり、環境づくりができればいいのかなと。

自分は、子供が1人しかいないから、今でも距離感が近いですからね。親ばかと言われるかもしれませんが、でも、それがいいかどうかは、また別ですけれども、そういうようなことを持っていけるような、子供のことをちゃんと大事にする、そういう教育なり、そういう事業の展開をお願いしたいと思います。

では、高花さん、文化面から。歴史面でもいいですよ。

○高花文化センター長 文化センターにいる身として、また生涯学習等やってきた中での経験談なのですが、子供が小さい頃とかの小学生、中学生ぐらいまでは、結構、市のいろいろなやっている児童館とか、生涯学習課でやっているものの参加が多いのですが、高校になってくると急に参加しなくなって。自分も高校時代を振り返ると、地元の遊び場というよりは、少し広く遊びたいというのがあったりして、そういうところの世代のニーズは何だろうなというのを考えているのですが、本当に答えが見つからなくて。文化センター各館いろいろやっているのですが、本当にその世代が一番少ないのかなというところなんです。

図書館だけは、学習用の自習室があるので、そういうところはかなり活用されているのですが、個人で勉強する場なので、そういう居場所も一つはあるのかなと思っているのですが、

多分、生涯学習をやっている人というのは、なかなかそういう高校生などの事業とか何かいいのがないのかなというのは、常に課題に思っているのではないかなと思いました。以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。大事な視点で、高校は白井高校がうちはあるのです。白井高校はどちらかというと、地域に入って行って、いろいろなボランティア活動をしたいという思いがありますから、ぜひ白井高校も、そういうタイアップをして、いろいろな事業展開を図っていただければいいかなと思うので。今、校長先生が一生懸命に、10月29日に駅前センターで高校生中心のいろんな意見交換会をやるのです。そこに行こうと思っているのだけれども、そこでいろいろなヒントがあるかもしれない。やはり当事者の視点が大事だから、そういう人たちの意見というのを吸い上げながら、文化活動なり、そういうのに生かしてくれればいいなというふうに思います。ありがとうございます。

最後に、これから計画をつくる、その一番の責任者ですから、今日のいろいろな話を聞きながら、何か感想なり意見があれば。

○村越企画政策課長 初めまして、私、企画政策課の村越と申します。どうぞよろしくお願ひします。

まず一つ、このテーマの中で自分が1個だけ言いたいこととかいうか、今、各学校、子供たちに1台タブレットを持っていますよね。情報社会と言われている中で、もっとタブレットを活用する方法として、居場所としても、そのタブレットを活用できる方法が絶対あると思っているのです。どこの市かを忘れてしまったのですが、タブレットを活用して、オンラインでの居場所づくりというのをやっているところがあります。

もっと言うと、メタバースという仮想空間を使った居場所づくりというところをやっているところもあるので、それは近々にやる必要かどうかというのももちろんありますけれども、一つのイメージとして持ってもいいのかなというふうに自分は思っています。

それから、山本課長も言っていましたけれども、先ほど委員からの御指摘で、PRが下手というところ、これは長年の市としての大きな課題だと思っています。

でも職員としては、これでも一生懸命やっているつもりなのです。やっているつもりなのですが、市職員の感覚と受け手の感覚というのが大きく差があるのは常々実感しているところです。

これは、必ずその地域とのつながり、市民の方とのつながりを持っていく上で、絶対にこの格差、それこそ格差ですよね。を解消していく必要が絶対あると思いますので。それこそ次期計画というのはもちろんありますけれども、少しでも早くこれを解消できるようにアイデアはひねっていききたいな

と思っています。

今後、先ほどから市長が言っていますけれども、今、第5次総合計画というのが令和7年度までの計画でございます。令和8年度からは第6次の計画というものを、新たに市の将来像、10年後の目指す姿を立てて、それに向かって市はどのようなことをやっていきますかということをしていくこととなります。当然、教育部門もありますし、通常の市の産業部門だったり、いろいろな部分の事業立てをしていくこととなります。

これも常々言われることなのですが、それぞれの事業としては独立して、いい事業を立てていると思っています。

ただそれが、市長が言ったように、横串を刺しての市民へのPRというのがうまく伝わっていない部分が多いのかなというのは、今年、企画政策課に戻ってきて、いろいろな市民の方と話していると痛感しているところなので、それについても解消して、本当に市民の方に伝わるようなものをつくっていきたいと思っています。

その中で子供たちの意見というのは、それこそ将来の宝である子供、市の将来を担う子供たちの意見をしっかり聞いて、小学生、中学生、それから白井高にも聞くのですよね、松田君。

○事務局 はい。

○村越企画政策課長 白井高にも聞くということで今予定しています。

もう一つ、今、可能かどうかと、どこまでできるかは分かりませんが、もう一つ上の世代というのですか、にも聞ければなということも一応考えてはいますので、これから、そんな将来を担う人たちの意見をたくさん取り入れて、魅力のあるまちづくりを進めていきたいなと思っていますので、ぜひ教育委員会の皆様のお力添えも必要になるかと思っておりますので、その際はよろしくお願ひしたいと思っております。ありがとうございます。

○笠井市長 ありがとうございます。まとめてもらって、なぜこういう会議のスタイルにしたかという、やはり皆さんの本音を聞きたい。

会議というのは、本来は自分の考えていることを発言をして、行政も本来、それに対して、いや違うとか、こうだとか、そういう議論の場に会議を持っていきたいのですよね。決められたことをただこなすだけではなくて、本音で行政職員も、ぜひ、今、やっていることをアピールしたり、それは委員さん違いますよということも言っている。そうしなければ、政策というのはどんどん深まっていかない、こういうスタイルに変えていきたいと思っています。常にそれを考えているので、ぜひ皆さんも、教育委員会でもいろいろな立場が違ったり、考え方があっていいのです。

役所も、役所なりにやっていることもあって、その中である程度、政策を固めていってほしいのです。それがないと、どうしても、やりました、発表しますになってしまうので。ですから、こういう会議スタイル、こういう意見交換をどんどんやっていきたいし、自分は、この総合会議というのはこういうふうに言います、それは委員さん違いますよということもはっきりと言わせていただきますので。その中で、誰か言っていることが一番子供に適しているのか、適切なのかということを探していきたいと思っています。こういうスタイルでやらせていただいて、ありがとうございます。

今回、来ている職員も、参加して初めて自分たちの意見を言ったし、これからは、この会議の中でも現状を言ったり、今、困っていることを相談しながら、少しでも実のある会議を進めていただければと思っています。

以上で、教育長、自分のほうが今回、総合会議ということで、皆さんと本音を交えながら、本当に今日のテーマでありますけれども、子供一人一人に寄り添った居場所の提供というのを模索をしていきたい。完成はないと思います。常に探っていきたい。こういうようなスタンスでやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○事務局 それでは、お忙しい中、本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第1回白井市総合教育会議を終了いたします。

次回は、令和6年2月から3月頃に第2回会議を開催を予定しております。

それでは、本日は、皆様お疲れさまでした。

午後4時26分閉会